

一般質問

9月定例会では、32人の議員が一般質問を行いました。質問の持ち時間は答弁を含めて1人60分です。

ここでは紙面の都合上、1人1項目を選び質問・答弁を要約し、ジャンルごとにまとめて掲載しました。

<会派の略称>

社民・市民=社民・市民ネット

簡易型放射性物質分析機器



放射能対策

放射能対策

清水みな子議員(日本共産党)

放射線量の低減措置どう行う 高数値の施設優先に低減策を行う

東電福島第一原発事故から半年、今でも放射性物質を放出していると推測され、市は市民の不安解消に努め

るべきである。市は放射線量が0.26マイクロシーベルト毎時を超える時に低減措置を行うが、根拠は何か。また、市民が独自に放射線量を測定し高い数値が

出た際の対応を問う。
答 低減の目安値は、事故以前から存在する自然放射線量と追加被曝線量の時間換算数値を足したものである。また、市民が高い数値を測定した場合でも、市全体の中で高い数値が出た施設を優先に低減策を行うことから、部分的な場所での措置は考えていない。

原発に依存しない社会

金子貞作議員(日本共産党)

原発ゼロの街づくり 市の見解は 自然エネルギーの計画的普及を図る

東電福島第一原発事故の放射能の影響を市民が大変心配している。今回の事故から、市は原発に依存しない社会、原発ゼロの安全で再生可能な自然エネルギーの先進市を目指すべきと考えるが、市はどう考えるか。

答 野田首相が就任後の所信表明で、原発への依存度が必要であると考えている。

い社会、原発ゼロの安全で再生可能な自然エネルギーの先進市を目指すべきと考えるが、市はどう考えるか。本市としては、恒常的な節電対策に取り組むと同時に、太陽光発電の計画的な普及など自然エネルギーへの転換を着実に推進していくことが必要であると考えている。

放射能対策

秋本のり子議員(社民・市民)

市内産農産物の放射線量 検査結果をホームページで公表

市独自の放射線量0.26マイクロシーベルトを設定して、放射性物質の低減へと進められているが、内

部被曝に対してはまだ課題も多い。市では測定器を配備し市内産農産物の放射線量測定をすることだが、中には学校給食で使用される食材も含まれている。不安解消に努めていく。

市は8月に簡易型放射性物質分析機器を導入し、市内産農産物のスクリーニング検査を行った結果を公表している。その中でも学校給食に使用される市内産農産物は優先して検査を行い、検査結果を市のホームページで公表し保護者の不安解消に努めていく。

学校給食の放射能対策

戸村節子議員(公明党)

食材の放射性物質 どう検査 検査機関に委託し実施していく

学校給食の放射能対策として、食材発注や使用に際し、産地や出荷制限等の最新情報を確認しているのか。

答 牛肉は平成23年9月から当面の間使用を自粛し、牛乳は基本的に千葉県が定期的モニタリング検査を実施している県産の原乳を使用している。また、放射線物質検査は、給食食材の納入業者から、納品の可能性の高い野菜、豚肉等を検体として提供を受け、検査機関に委託し実施していく。

ことだが、特に牛肉や牛乳について保護者は大変心配している。どう対応しているのか。また、食材の放射性物質を検査することだが、どのように行うのか。

危機管理

震災対策

佐藤義一議員(民主・連合)

災害時の交通網対策は 緊急活動道路を優先して復旧

首都圏直下型地震が30年以内に98%の確率で、発生するのではないかとされている。

その対策で参考になるのは、16年前に発生した阪神・淡路大震災であるが、交通網の寸断など多くの問題点があった。市では、その教訓を生かした対策を取っているのか。

答 本市では緊急活動道路として、行徳街道他64路線を選定し、災害時には優先的に復旧させて災害対応に使用する計画をしている。また、大規模火災を想定した防災体制を強化したり、職員参集訓練等、教訓を生かした種々の対応に取り組んでいる。

災害時の避難ビル協定

西村 敦議員(公明党)

行徳地区の2店舗と協定結べないか 所有者に理解を得て積極的に進める

本市では、東日本大震災を受け、津波や高潮対策として、大型商業施設のサティ市川妙典店と避難ビルの協

定を締結した。ニッケコルトンプラザとも一時避難場所としての協定を締結しているが、川と海に囲まれている行徳地区に立地するダイエー南行徳店と西友行徳

店とも、協定の交渉ができていないか。考えを問う。
答 津波の時は高い建物に避難するしかないと考えますが、行徳地区には高台がない。今後、ビルの構造や想定する津波に有効な建物かを検討し、ビル所有者に避難ビルとしての条件を理解してもらい、協定締結に向けて積極的に進めていきたい。

防災訓練

宮田かつみ議員(自由民主党)

大震災教訓にどう対応する 実践的な訓練メニューを用意

現在行われている防災訓練は、イベント的になっており、地に足が着いていないと感じている。市として

どのように認識しているのか。また、今回の震災を教訓に地域は自分達で守るという意識が強くなってきていることから、実践的な訓練メニューを用意していく。

どのよう認識しているのか。また、今回の震災を教訓に地域は自分達で守るという意識が強くなってきていることから、実践的な訓練メニューを用意していく。

放課後保育クラブ

稲葉健二議員(緑風会)

災害時の緊急確認手段は 保護者への一斉メール送信を検討

放課後保育クラブに子どもを預ける保護者は基本的に就労者であり、災害時は帰宅困難者になることが考

えられる。保護者への緊急の確認手段はどのようなものと考えているのか。また、保育クラブにも水や食料、毛布など、必要最小限の備蓄が必要だと思うが、市の

放課後保育クラブに子どもを預ける保護者は基本的に就労者であり、災害時は帰宅困難者になることが考

えられる。保護者への緊急の確認手段はどのようなものと考えているのか。また、保育クラブにも水や食料、毛布など、必要最小限の備蓄が必要だと思うが、市の